

平成 29 年度第 1 回 (仮称) 岐阜市未来ビジョン民間懇話会 議事録 概要

【日 時】平成 29 年 12 月 19 日 (火) 14 時 00 分～15 時 30 分

【場 所】岐阜市役所本庁舎低層部 3 階 大会議室

【出席委員】福士秀人会長、徳広圭子副会長、石樽利彦委員、乾尚美委員、井上いほり委員、井深正美委員、岡田芳子委員、葛西美紀委員、河尻満委員、栗本恒雄委員、栗山尚子委員、塩見善彦委員、須賀敦士委員、杉山利夫委員、土屋雅代委員、中村吉宏委員、西垣信康委員、信田朝次委員、服部勝弘委員、平尾宜史委員、平光宗基委員、松原和生委員、村井博史委員、森康次委員、屋比久寿子委員、藍石委員

1 開会

2 企画部長あいさつ

・昨今、人口減少や少子高齢化という言葉聞くようになり、身近に空き家が増加し、子どもの姿を見かけなくなるというような場面が出てきています。このことは将来に向け、労働力人口や税収の減少、そして市民サービスの提供が厳しくなることなどに繋がってくるため、岐阜市が今後どう対応していくのかということは真剣に考えなくてはならないことだと思います。岐阜市総合計画の基本計画については今年度末で終了となるため、これらについて皆様と一緒に考え、平成 30 年の秋頃を目途に(仮称)岐阜市未来ビジョンを策定していきたいと思えます。ビジョンでは、今までの総合計画の基本構想の中の普遍的な考え方を活かしながら、更に未来に向かって、まちづくりのあり方、行政のあり方、行政経営を進めていく上での方針を未来都市像、あるいは推進方針として掲げていきたいと考えています。未来都市像については、将来にあたってどういうことをしていくのかを、市民の皆様の思っていること、不安なこと、希望なこと、様々なことを取り込んでいきたいと思えます。一昨年度から様々な形で意見募集、あるいは市民集会、意見交換会を行い、今年度から有識者の方々から幅広い意見も頂いたところです。今回、それらを踏まえて、未来都市像検討に向けた基本的な方向性を整理したところであり、皆様からこの整理についてご意見をいただき、よりよい(仮称)岐阜市未来ビジョンを策定していきたいと思っています。皆様の忌憚ない意見をお願いしたいと思えますので、よろしくお願ひします。

3 委員紹介

◆委員の委嘱状を交付

4 会長・副会長の選任

◆福士委員を会長に選出

◆徳広委員を副会長に選出

5（仮称）岐阜市未来ビジョン民間懇話会について

◆事務局より資料②に基づき説明

6 議事

（1）（仮称）岐阜市未来ビジョンにおける未来都市像検討に向けた基本的方向の整理（案）について

◆事務局より資料③－1に基づき説明

◆意見交換

○委員

・学校では議論する場としてアゴラを作っており、日常的な授業のなかで、いろいろな議論を繰り返し学んでいます。知識がスマホ1台で手に入る時代なので、それを使って何をするのか、どうやって社会に関わっていくのかという新しい学びに向けた動きがあります。現在、13～15歳の中学生が10、15年後には、23～25歳と社会で活躍する子育て世代になっているので自分達の未来を語るという上で、中学生の意見を聴いてもらっても面白いと思います。

・学校では中学生が地域でボランティア活動をし、地域の方に学校にきてもらうような、双方向の動きがあります。学校は地域と密着しており、人が多く集まってくる場所なので有効活用できればと思います。保育園実習のように地域の子育て支援団体と学校の連携も可能だと思います。基本的に誰かが何かをしてくれるという考えではなく、自分たちがまちづくりの主体者となっていくような、主体性を子どもたちには身に付けて欲しいと思っています。

・いくつかのカテゴリに分けて3つの分科会となっていますが、それぞれの整理された項目をみると、相互に関係している部分も多いと思います。教育でいうと歴史文化との関連、職業教育、キャリア教育などもやっているのです、分野が分断されるのではなく、相互に係っていくような視点を持った計画になっていくといいと思います。

○会長

・ありがとうございます。大学でも地域と積極的に交流し、地域の方々から学ぶことをやっているのです、中学生の頃からやっておくと、より地域が活性化されると思います。

○委員

・私は5歳の子どもを育てている母親ですが、知識はすぐに手に入れられる環境にあるので、今後の教育は、知識を詰め込むだけではなく、自分の能力を存分に活かしきれる力を養う必要があると思います。また、感情をコントロールすること、体力をつけること、目標に向かってやり遂げる能力が必要になってくると思います。

・子どもが学校から疲れて帰ってきたときに、それをフォローする人の存在が必要になってくると思います。学校では授業を教えるので精一杯で、家庭では働いている方が多く、日々の暮らしで精一杯となっているため、地域や企業が学校や保護者と力を合わせて、子どもの意識や成長性を育てる視点で、子どもを見守っていく事が必要だと思います。

○会長

・ありがとうございます。未来を担う子どもたちをどう地域で見守りながら、のびのび育てていくかということだと思えます。

○委員

・先ほどから出ている意見は、地域との交流といった点で大事なことだと思えます。是非、地域全体で子育てや教育を支えていける仕組みがあるといいと思えます。

・ビジョンでは地域で支えあうといった観点から「地域と行政との協働による安全・安心なまち」との記載がありますが、自治会加入率が低下し、自治会が歴史的な危機にある現状や、自治会の大切さを、地域の人に見せていくことが必要だと思えます。また、地域福祉的な新しい課題の解決に取り組むにあたっても、地域コミュニティの再生は必要になってくると思えます。現実的には、自治会だけでなく、地域を構成するいろいろな団体の加入率も低下しており、人口規模もどの地域にあっても減少しているという流れがあります。地域の生活圏を支えていくためには、安全・安心はもちろんのこと、基礎的な繋がり、率直にいうと、人の数ではなく、人と人の関係が弱くなっており、孤立や社会が分断された状況にもあるため、これをどうしていくかは課題となっています。これはいろいろな分野に関係することなので、その対策を行政がやっていかないと本当に希望の持てるまちに繋がらなくなるため、その点を強調されるといいと思えます。

○会長

・実際に住んでいる人たちは「安心」という言葉だけではなく、その「安心」というのは人の繋がりがあつての安心であり、人の繋がりがきちんとすれば、「安全」なまちに繋がるといふことだと思えます。世代を越えることによって未来を担う子ども、高齢者との一体感が生まれて、いいまちになると思えます。

○委員

・資料に多文化共生の項目がありますが、10～15年先では外国人の数が増加しています。外国人の増加に伴い、地域だとゴミ出しのルールが共有できない、PTAでは意思疎通が難しいといった課題が出てきています。ただ、身の回りのコンビニなどでも外国人を見かけるなど、日本が人口減少、高齢化していくなかで、これから外国人の力に頼ることが多くなると思えます。外国人を地域のなかでどう受け入れ、一緒にやっていくかは、大きな未来の課題だと思っています。これから日本全体、岐阜市にとっても大きな課題であり、ある意味可能性になってくると思うので、良いところを取り入れていくといった視点を持つていくことも大切だと思えます。

○会長

・多文化共生、多様性のある社会がこれからの未来社会の大きなファクターになるということ、そこを岐阜市の特色として出していくことも必要だということだと思えます。

○委員

・市民意識調査結果における将来都市像の比較を見ると岐阜市の現実が見えてきます。平成23年度に比べ回答率が上昇した「福祉・保健・医療サービス」、「防犯・防災対策」の充実についての関心の高まりはイメージできますが、注目したいのは、倍近く数字が伸びた「交通環境」の充実です。岐阜市は路面電車を廃止し、公共交通といえば路線バスとコミュニティバスに集約されています。路線バスでは、均一区間以外の値段が高くなっており、高齢者の外出を妨げる要因となっているなど、地域において問題になっています。コミュニティバスについては、全国的にも先進的な役割を果たしていると言われてはいますが、まだまだ十分だと思っておりません。公共交通は、高齢化が進む中で重要な役割を担っており、これらは重要な課題になってくるかと思えます。

○委員

・将来を考える上では、人口問題がキーワードになると思います。世界の人口は2050年に97億人を上回る一方で、国内人口は2053年に1億人を下回り、岐阜市の人口は2035年に36万2千に減少するなど、世界を除けば、国内も岐阜市も人口は減少傾向となっています。これからは、人口減少社会を捉えるなかで、あらゆる政策を考えていく必要があると思います。例えば、人口が減少していく中で、岐阜市の新庁舎建設計画に対して、大きな庁舎はいらないのではないかという意見もあります。これからは、人口問題を基本に、将来需要を考えていくことが大切であり、その観点から施策を進めていく必要があると思います。

○会長

・人口減少を見据えて、公共サービスのあり方や行政と市民全体のバランスをどうしていくかといった意見だと思います。

○委員

・今後の10～15年を考えた場合、少子高齢化がキーワードとなっており、高度成長期のようなバラ色のビジョンではなく、人口減少社会を見据えながら、一定の制限下において現実的な未来を描こうということは、まさにそのとおりだと思います。ただ、何も考えなくても良いということではなく、例えば、2024年に東海環状自動車道が開通し、岐阜インターチェンジもできるといった、ある意味、産業界の未来も案外捨てたものではないという見方もできると思いますので、これらの出来事を理念の背景としていくことは重要な要素になると思います。

・この場で議論するだけでなく、市民が主体性を持って取り組む必要があるため、このような議論をいかに市民の方と意識共有できるのかがまさにこの懇話会の意義であり、それをどう発信していくかということが大事になってくると思います。

・かつて岐阜市では、繊維産業が盛んでしたが、今はサービス産業が一番の産業になっています。かつて柳ヶ瀬は繁華街でしたが、今では玉宮町の方がすごく賑わっています。ただ、柳ヶ瀬も再開発や様々な取組みで活気が戻ってきているという見方もありますし、川原町で

も古民家を再生して、伝統工芸、和傘を維持していく取り組みが始まっていることもあり、ある意味、将来に対する不安といったものがバックボーンとなった若い人たちが、それに対する危機感から、様々な取り組みを始めているのが現実だと思います。このような取組みに対して、産業界や、行政も、岐阜市の未来を踏まえれば、若干寛容な考え方も必要になってくるのではと思います。

○会長

・ありがとうございます。社会を支えていくには、経済的活動だけではなく、生活機能の維持が必要になってくるという意見であり、未来に向けてどうしていくのかを本会議のメンバーだけでなく、ここにいない 40 万の岐阜市民全体と一緒に考えることが大切だという意見だと思います。

○副会長

・来年度、幼稚園、保育園、認定こども園で実施する保育や教育の指針や要領が改定になります。改定内容として小学生になるまでに、子どもたちの認知能力ではなく、非認知能力を高めていくといった記載があります。認知能力はいわゆる IQ として測ることができるもので、テストの点数として数量的に測ることができますが、非認知能力は忍耐力、自信、社会性など人が生きていくために必要な力となり、数量的に測ることが難しいと言われています。この非認知能力に長けている人は成長してから成功しているということが国内外の調査でわかってきました。また、人とどう関わっていくかという非認知の能力は、人生を豊かにするなど、人の人生を大きく変えると言われています。

・小さい子どもたちがより豊かな人生を送っていくということを考えるときに、ひと、まち、活力のバランスを上手く取りながら、そのなかで岐阜市がどちらの方向に向かっていくのかを考えていく必要があると思います。例えば、ベビーカーに赤ちゃん載せてバスに乗ろうと思ったときに、乗りやすいバスは高齢の方や障がいのある方などいろんな人にとっても乗りやすいバスになるのだと思います。ここに居る皆様の様々な切り口をもとに忌憚のないご意見を分科会で頂くことになると思いますが、様々な観点の意見を絡めあいながら一つの方向性を作っていくことが大切だと思います。また、40 万の岐阜市民全体の意見を聞くのは難しいのですが、私たちがその代表として来ているということで、次の分科会までに身近な当事者の意見を聞いてみて、それを少しでも取り入れていくということができればいいと思います。私自身も子育てしている親とか保護者の方、学生にいろいろな意見を聞いてみたいと思います。

(2) 分科会について

●分科会の設置について

◆事務局より資料④及び⑤に基づき説明

- 分科会員及び分科会長の指名
- ◆徳広委員をひと分科会長に指名
- ◆福士委員を活力分科会長に指名
- ◆村井委員をまち分科会長に指名

- 今後の進め方について
- ◆事務局より説明

◆意見交換

○委員

・6つの基本的方向については、政策として網羅性があり、良いと思います。ただし、現在、人口減少、高齢化、低成長前提の社会を迎えており、いろいろな分野で共通して認識しておかなければいけない重要な項目として、効率的な都市構造を維持していくためのコンパクト化が挙げられると思います。岐阜市の人口減少は各地域様々で一様でもなく、高齢化はとりわけ中心市街地、北部、東部で進む傾向にあり、一方で、周辺の市町からの通勤・通学の流入は広範囲になっており、名古屋圏への通勤・通学の流出も大きくなるなど、地域や圏域はさまざまな状況に直面しています。岐阜市は、これらの地域や圏域の特色を踏まえた上で、地域の各拠点に機能を集約、あるいはネットワーク化を図る姿勢でコンパクト化を進めていくことも大事な視点であると思います。こういう道筋を進めていくことは、中長期的にも地域力を維持、向上することに繋がっていくと思います。

○会長

・ありがとうございました。コンパクトシティの考えは今後の自治体にとって重要になるということだと思います。いずれの分科会にも関係してくることなので、相互関係を考えながら進めていってほしいと思います。

・多様性という点では、国籍、性別だけでなく世代的な多様性も重要だと思います。ある意味、彼らが大人になった時、この岐阜市を作った人は誰だという話になっても、ここにいる人は大半がいないと思うので、その点で、市民が主体性を持って自分のこととして考えることは大人に限らず子どもたちにとっても大事なことだと思います。子どもが地域の問題を自分で考え、外に出ていくようになるためには、子育て環境の充実や地域の見守りや互いの支えあいといった繋がりが大切になってくると思います。また、そういった点で行政機関と自治会がうまく歩調をあわせるのも大事になってくるかと思っています。さらには、まちの根幹にかかわる産業構造の変化も意識していく必要があります。若い子どもが大人になった時に、働き場所が本当にあるのか、現在ある職業のうち6、7割は将来、無くなると言われていまして、未来の子どもたちの雇用に繋がるような産業構造の変化を見据えた仕事をしっかり作っていくことが求められてくるかと思っています。そういった時に人の移動がどうしても付きますので、公共交通の役割とか外との繋がりも大事になると思いますし、都市圏域の繋がりもいずれは大事になると思います。

・ 今後は分科会において、未来都市像実現に向けた各種政策等の推進の方向性を検討いただくわけですが、分野ごとに行政課題、推進すべき取組みについて忌憚のない意見をもらえればと思います。

7 閉会

○事務局

・ 本日は、意見をいただくのに十分な時間が取れなかったかもしれませんので、意見がある場合は、直接事務局お伝えいただければと思います。今後は、分科会において、未来都市像の実現に向けた各種政策等の推進の方針を検討するため、分野ごとの行政課題や、推進すべき取組についてご意見をいただく予定です。よろしくお願いいたします。